



【支部長挨拶】

関東甲信越ブロック支部長 大西弘高

今期、関東甲信越ブロック支部長に就任しました大西弘高です。10 都県、4000 人を擁する最大のブロックにおいて、日本プライマリ・ケア連合学会（以下連合学会）全体とブロック支部、各都県支部を盛り上げるという役割に魅力を感じ、手を挙げさせていただいた次第です。

私自身は、天理よろづ相談所病院で初期および内科後期研修計 5 年、佐賀医大（現在佐賀大学医学部）総合診療部に足掛け 6 年（うち米国留学 2 年）、マレーシアの国際医学大の教員 2 年を経て、現在の職場で 13 年半おります。総合診療医学会、家庭医療学会の役員、プライマリ・ケア学会の委員などを歴任してきました。

学会全体としては、2010 年 3 学会合併のときから悲願としてきたプライマリ・ケア領域の専門医制度が 2018 年 4 月に開始されたという大きな節目を迎えました。その結果、他の基本領域の専門医はそれぞれの学会がプログラム管理、指導医、研修修了判定、専門医試験を司るという、これまでと同様のシステムが継続されています。しかし、総合診療専門医を育てるための専門研修は現状のところ日本専門医機構が管理しているため、連合学会としては研修における発言の機会が少なくなりますし、研修を通じた収入が無くなるという問題も生じます。

このような危機をチャンスに変えるにはどうすればよいかを考えてみました。そのときに重要と思われるのは、学会員の強みです。患者のどういう健康問題でも受け止められる能力、在宅から病院までの連携、多職種連携の 3 つが挙げられ、そのうち後ろの 2 つについては、それぞれの地域での連携を広げていくことが重要です。よって、ブロック支部や都県支部を盛り上げるためには、在宅から病院までの連携、多職種連携の 2 つの視点で、互いに協力し合える関係、学び合える関係を構築していくことが期待されます。

その際に重要なのは、世代を超えて、あるいは職種を超えて集まるための仕組みづくりであると思われます。ブロック地方会にそのような機能が十分発揮できているか、あるいは各都県支部会での取り組みはねらいに沿って行われているかといった側面から、運営を見直していきたいと思います。今後とも、関東甲信越ブロックの会員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

【千葉県支部】

千葉県支部長 林 直樹（東武塚田クリニック）

第 7 回関東甲信越ブロック地方会を平成 30 年 11 月 18 日(日)に千葉市で開催します。

総合診療専門医認定制度の初年度であり、プライマリ・ケア医療が地域に浸透していくためにも、多くの方々のご参加を切望いたします。

開催概要

- 大会名称 第 7 回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会
- 会長 大平善之（国際医療福祉大学医学部総合診療医学主任教授）

- 開催日時 2018年11月18日(日曜日)
- メインテーマ 地域医療を拓く総合診療が始まる！ ～地域を支える新しい医療の潮流～
- 開催場所 TKP ガーデンシティ千葉
(千葉県千葉市中央区問屋町 1-45 カンデオホテルズ千葉内 TEL:043-302-1721)

●プログラム

I 特別講演

- (1) 生坂政臣(千葉大学医学部附属病院総合診療科,教授)
「Uncommon で Common を極める-Unco 知新をドクターG 式カンファで共有しよう-」
- (2) 近藤克則(千葉大学予防医学センター教授)
「生物・心理・社会モデルと地域保健と社会学」

II 教育講演

- (1) 太田光泰(横浜市大総合診療科 教授)
「痛みの診かた・考えかた～症例を中心に」
- (2) 岡田唯男(亀田ファミリークリニック館山 院長)
藤沼康樹(医療福祉生協連家庭医療学開発センター千葉大学大学院看護学研究科 特任講師)
「事例を中心に、総合診療のコア、魅力、課題、など — 若手医師、中堅医師を交えてディスカッション」

III シンポジウム

- (1) 「プライマリ・ケアの今までとこれから」(千葉県プライマリ・ケア研究会との合同シンポジウム)
座長 和座一弘(日本プライマリ・ケア連合学会千葉県支部副代表)
シンポジスト ;
創世期 高木恒雄(前千葉プライマリ・ケア研究会代表世話人)
熟成期 石橋幸滋(実地医家のための会代表世話人・東久留米市医師会長)
家庭医専門医・指導医 岩間秀幸(亀田家庭医総合診療専門医プログラムディレクタ)
研修医 伊豆倉遥(亀田家庭総合診療専門医プログラム 研修医)
- (2) 「地域を耕す総合医」・・・地域で求められる総合診療医の展望と課題
座長 川越正平(あおぞら診療所院長)
シンポジスト
石川広己(日本医師会常任理事(医療政策担当))、
松岡かおり(千葉県医師会理事)
和座一弘(千葉県医師会議長 前松戸市医師会会長)
松井善典(日本 PC 連合学会家庭医療専門医・指導医)
指定発言 中村信(千葉県内科医会会長)
- (3) 「総合診療専門医プログラムが開始して半年経った今～現状、問題点、今後の課題から見えてくるもの～」
座長 金井貴夫(東千葉メディカルセンター 総合診療部)
上原孝紀先生(千葉大学総合診療科)

IV 拡大ワークショップ

(1) 医師と看護師が乗り越えるべきコミュニケーション上のクリティカルポイント

酒井郁子 (千葉大学看護学部)

杉本なおみ (慶応義塾大学看護医療学部)

藤沼康樹 (千葉大学大学院看護学研究科専門職連携教育研究センター)

大西弘高 (東京大学医学系研究科医学教育国際研究センター)

(2) 非がんのエンドオブライフ

平原佐斗司 (東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所)

荻野美恵子 (国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター教授)

三浦靖彦 (東京慈恵会医科大学附属柏病院 総合診療部)

V ワークショップ

(1) エキスパートから学ぶ！ポートフォリオ作成から指導までの秘訣 – All 関東甲信越ブロックスペシャル

(2) -I 「ゼロから始めるファッシャリリース講座」

-II 「全身を診るプライマリ・ケア医師のためのほんとに初歩のエコー講座」

(3) 動脈硬化御三家！～エビデンスに基づいているけれどシンプルで分かりやすい一歩上の高血圧・糖尿病・脂質異常症診療

(4) ポリファーマシーを一歩先へ ～多職種連携が問題解決の一歩～

(5) アドバンス・ケア・プランニング再考～「自分ごと」と「他人ごと」の狭間で価値観を考える～

(6) 「ジェネラリストから学ぶ！プライマリ・ケアで役立つ身体診察」

VI ポスターセッション

VII 指導医講習会 (学会本部主催：家庭医療専門研修指導の経験者向け)

ビデオレビューを用いた生物心理社会モデルの指導

「生物心理社会モデルのレクチャーの実施方法やどう教えるかについて のグループワーク」

「指導医講習会」の申し込みは下記よりお願いします。

http://www.primary-care.or.jp/nintei_in/kousyu.html#20181118c

是非多くの関東甲信越ブロック会員皆様のご参加お待ちしております。

もちろん他のブロック支部からの参加も大歓迎！

今、地域に「総合診療専門領域」を浸透していくことが重要です。そのためにも身近な非会員の知り合い方々にもご紹介してください。参加して良かった！と期待を裏切らない地方会開催に向けて、実行委員、千葉県プライマリ・ケアを担う仲間が鋭意邁進しています！

詳しくは、地方会 HP をご覧ください！ <http://primarycare-chiba.org/7th>

問い合わせ先：第7回日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック地方会事務局 林 直樹
〒273-0042 千葉県船橋市前貝塚町 565-12 東武塚田クリニック
Tel : 047-430-3322 Fax : 047-430-3450
E-mail : n-hayashi@tobutsukada.or.jp

【埼玉県支部】

日本プライマリ・ケア連合学会 埼玉支部長
明医研ハーモニークリニック院長 中根晴幸

埼玉支部のプライマリ・ケア（以下PCと略）連合学会活動の今年9月以降の展望をお知らせします。

6月19日に行われた世話人会で、今年度の埼玉プライマリ・ケア連合研究会（兼総会）を30年11月16日（金）に開催する予定が採択されました。会場は例年通り大宮ソニックシティ（今回は606号、607号室において）で開催する予定です。会員の皆さま、従来サポートしていただいている皆様には、ご参加への日程調整よろしくお願ひします。今年の勉強会のテーマとして、医療・ケアの国家施策として、現在最も重視されている「地域包括ケア」に関わる認識と現状について、PC学会としての知識を深めようとのテーマ設定が提案されました。

検討の中で、今年度の教育講演には多くの職種、年齢層にとって解りやすく、現在の施策遂行の中心として発信力のある、がん相談施設「マギーズ東京」センター長の秋山正子氏を招聘し、教育講演をお願いすることになりました。その他の発表演題については、8月末現在、なおも検討中です。

世話人会では同時に、来年3月が年度末になる役員任期についての選任が検討されました。現在の支部長、事務局長は2015年から始まった任期の3年目であり、本来は2年毎に更新されていたところを、昨年度の地方会開催の準備の必要から、そのまま1年間留任という形となっていました。代表世話人の中根から、次年度より退任の意向が伝えられたのに続き、さいたま市民医療センター副院長の石田岳史先生が代表世話人に推挙され、満場一致で承認されました。中根前代表は今後顧問として世話人会に参加することが承認されました。石田新支部長には11月の総会席上で交代人事を報告することとされました。

その後、大野洋一事務局長の後任には石田先生からの推薦で、ハーモニークリニックの中井秀一先生が推挙され、大野先生は再び世話人として支部活動に参加いただくこととなりました。支部長、事務局長、顧問、世話人の新人事は11月16日（金）の総会で発表されると共に新体制に移行することが了解されました。

新体制の中、さらに会員の要望に応える埼玉プライマリ・ケア連合研究会としての活動を目指しています。ご支援よろしくお願ひいたします。

【栃木県支部】

栃木プライマリ・ケア研究会事務局 寺裏寛之

プライマリ・ケア研究会のご報告

栃木プライマリ・ケア研究会では、前年度、下記のテーマで座談会を行いました。

平成29年8月24日 総会

平成29年11月30日 テーマ：風邪を考える

平成30年2月22日 テーマ：健康診断の意義を考える。

平成30年5月31日 テーマ：健康格差・ライフコースアプローチ

【神奈川県支部】

神奈川支部 幹事 土田知也

本支部では地域医療に関わる多くの職種が参加し活動をおこなっております。

活動の中心は年2-3回の多職種が参加する学術集会の開催であります。今年度はおかげさまで記念すべき第100回を迎えることができました。第99回、第100回の学術集会についての報告をさせていただきます。

●第99回学術大会 平成30年3月24日(土) 神奈川県総合医療会館

テーマ「ちょっとまって！便秘への対応、それで大丈夫？」

司会進行 日本プライマリ・ケア連合学会神奈川支部幹事 土田 知也

1. 開 会 日本プライマリ・ケア連合学会神奈川支部 会長 松田 隆秀

2. 症例提示1 グループディスカッション+発表

3. 講 義「排便をもう一度見直してみよう！～最新の便秘治療も含めて～」

木村内科・胃腸内科 院長 木村 貴純

4. 症例提示2 グループディスカッション+発表

5. 総括・質問

6. 閉 会 日本プライマリ・ケア連合学会神奈川支部 副会長 山本 晴章

日常生活の問題としてよくある便秘。特に在宅療養中の患者にとっては、大きな問題となります。便秘ガイドライン作成にもかかわった木村医師より便秘の最新知見も含めたレクチャーと、排便コントロール困難症例に対するグループディスカッションを参加者全員で行い、便秘に関する理解を深めることができました。

●第100回学術大会 平成30年6月23日(土) 神奈川県総合医療会館

テーマ「地域住民の生活と医療 ～私は専門職としてこんなことを行いたい～」

司会進行・座長 日本プライマリ・ケア連合学会神奈川支部副会長 山本 晴章

日本プライマリ・ケア連合学会神奈川支部副会長 小川 亮子

1. 開 会 日本プライマリ・ケア連合学会神奈川支部会長 松田 隆秀

2. 基調講演(15分)「地域住民の生活と医療 ～私は専門職としてこんなことを行いたい～」

日本プライマリ・ケア連合学会神奈川支部 顧問 長谷川 修

3. シンポジウム(各5～8分)

(1) <医師>「専門性が高まる一方で、生活とも密着になる中での医療のあり方」横山医院 横山 太郎

(2) <歯科医師>「 歯科医療が今後目指していること 」神奈川県歯科医師会 副会長 鴨志田義功

(3) <薬剤師>「 地域と共に 原点回帰の薬局 」ミチト薬局 管理薬剤師 中里 裕之

(4) <看護師>「 地域に『出向く』『根ざす』看護～地域住民の生活と医療を繋ぐために～」

神奈川県訪問看護ステーション協議会 副会長 横山 郁子

(5) <ケアマネジャー>「 介護支援専門員としての役割 」一般財団法人シニアライフ振興財団

ヴィンテージ・ヴィラ相模原ケアサービスチームマネジャー 大木 輝和

4. 討 議(60分)

5. 閉 会 日本プライマリ・ケア連合学会神奈川支部副会長 鴨志田義功

高齢者が増加したことにより、地域と医療との結びつきが強くなり、各専門職は、5年後、10年後、20年後、どのように働いているのであろうか、またどのように働きたいのか、どのように社会に貢献するのかをテーマに、各シンポジストからプレゼンテーションがあり、その後の討議を通じて、地域と各職種の未来像、連携の重要性をともに考えることができました。

第100回大会という記念すべき会であり、これまでもまして盛会でありました。

本支部会におきましては、様々な職種、さらに多くの方々に会員になっていただけますよう活動を続けてまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

